

観光社会資本の事例

テーマ	海峡の景観を活かした港湾緑地	
【施設の状況写真】		
		
行き交う船舶や対岸の門司港などの関門海峡の景観を享受できる。	旅客船岸壁や水族館、市場を繋ぐ動線確保の役割も果たしている。	
【施設の利用写真】		
		
海響館(水族館)を訪れる観光客。	緑地の周辺ではいろいろなイベントが開催されている。	
【観光資源としての利用状況】		
あるかぼーと緑地の前面に整備された旅客船専用岸壁や海響館、商業施設と一体となった総合的港湾緑地を整備することにより、港湾とのふれあいの場として、観光客及び広く地域の人々にも親しまれている。 また、歴史的資産である巖流島や対岸の門司港レトロとのアクセス拠点としても、賑わっている。		

テーマ	海峡の景観を活かした港湾緑地
【社会資本の基礎データ】 ○名称 あるかぼーと緑地 ○所在地 山口県下関市あるかぼーと ○事業名 下関港港湾環境整備事業(緑地等施設) ○事業主体 下関市 ○事業期間 平成3年度～平成19年度	
【社会資本の役割・効果】 ○港湾の特徴を活かした親水性の高い良好な空間の形成 旅客船岸壁、観光施設、商業施設を繋ぐ親水性の高いプロムナードとして、市民、観光客に利用されている。 1日に約700隻の船舶が目の前を航行し、対岸の門司港、関門橋など海峡独特の魅力ある景色が広がっており、市民や観光客の憩いの場になっている。 - NHK 大河ドラマの影響もあり、各種イベントが開催される等、年間300万人を超える観光客が訪れ、水族館や市場と一体となってにぎわい空間を創出している。また、隣接地の岸壁にはクルーズ船が寄港するほか、対岸の門司港レトロ地区や巖流島へのアクセス拠点としても多くの人を惹きつけている。	
【位置図】	
【関連ホームページ】 下関観光ホームページ http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/kanko/	